

平成23年7月28日（木）

**平成24年3月期  
第1四半期  
決算概要**

**株式会社 カネカ**

もっと、驚く、みらいへ。

**KANEKA**

**1. 業績概要** （平成 24 年 3 月期 第 1 四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】 P. 2 参照）

（単位：億円）

	23年3月期 第1四半期	24年3月期 第1四半期	増減額
売上高	1,128	1,190	61
営業利益	63	36	△ 27
経常利益	72	35	△ 37
四半期純利益	46	22	△ 24
為替レート（円/US\$）	92.00円	81.71円	
為替レート（円/EUR）	117.02円	117.38円	
国産ナフサ（円/KL）	49,700円	59,400円	

- ◎ 売上高は前年同四半期連結累計期間（以下、前年同四半期）に対して 61 億円・5.4%の増収となりました。
- ◎ 利益は前年同四半期に対して営業利益で△27 億円・△42.5%、経常利益で△37 億円・△51.3%、四半期純利益で△24 億円・△51.7%の、それぞれ減益となりました。
- ◎ 為替は対ドルで円高、ユーロはほぼ前年同四半期並みとなり、前年同四半期に対して売上高で△30 億円、営業利益で△11 億円の影響がありました。

## 2. 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第1四半期決算短信 【添付資料】P. 11・12参照)

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	23年3月期 第1四半期	24年3月期 第1四半期	増減額	23年3月期 第1四半期	24年3月期 第1四半期	増減額
化成品	21,792	22,727	934	530	1,020	490
機能性樹脂	17,524	20,032	2,508	2,048	2,088	39
発泡樹脂製品	13,885	13,873	△12	1,169	670	△499
食品	30,578	33,070	2,491	2,289	1,623	△666
ライフサイエンス	11,996	11,532	△464	2,635	1,685	△950
エレクトロニクス	9,908	9,939	30	△861	△1,421	△560
合成繊維、その他	7,147	7,803	656	339	399	60
調整額	—	—	—	△1,828	△2,428	△600
計	112,832	118,977	6,145	6,322	3,637	△2,685

◎ 売上高は東日本大震災による需要減少の影響を強く受けた発泡樹脂製品、ライフサイエンスの2セグメントが減収となりましたが、化成品、機能性樹脂、食品、エレクトロニクス、合成繊維、その他の5セグメントは増収となりました。営業利益は化成品、機能性樹脂、合成繊維、その他の3セグメントが増益、発泡樹脂製品、食品、ライフサイエンス、エレクトロニクスの4セグメントは減益となりました。

◎ 当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

・ 化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内市場での販売数量の拡大に加え、原燃料価格の上昇に伴う販売価格の修正に注力し、増収増益となりました。塩ビ系特殊樹脂は、アジア市場向け販売数量が減少しましたが、国内市場の販売数量が増加し、コストダウン等も寄与して減収ながら増益となりました。か性ソーダは、出荷数量が前年同四半期より減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は22,727百万円と前年同四半期と比べ934百万円(4.3%増)の増収となり、営業利益は1,020百万円と前年同四半期と比べ490百万円(92.4%増)の増益となりました。

- ・ **機能性樹脂事業**

モディファイヤーは、欧米市場の需要が堅調に推移するとともに国内及びアジア市場の需要が活発化し、製品差別化力の向上及びコストダウン等の収益体質強化にも徹底して取り組みましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を強く受け、増収減益となりました。変成シリコンポリマーは、欧米及び日本の建築関連需要が低調に推移しましたが、各市場において販売数量の拡大を実現し、原燃料価格の上昇及び円高の影響をカバーして増収増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 20,032 百万円と前年同四半期と比べ 2,508 百万円（14.3%増）の増収となり、営業利益は 2,088 百万円と前年同四半期と比べ 39 百万円（1.9%増）の増益となりました。

- ・ **発泡樹脂製品事業**

発泡スチレン樹脂・成型品は、震災による東北・関東地域の水産分野の需要低迷の影響を強く受けました。押出發泡ポリスチレンボードは、国内住宅用途向けの販売数量が増加した一方、原燃料価格上昇に対応した製造コストダウンと経費削減に徹底して取り組みました。ビーズ法発泡ポリオレフィン は、自動車分野のサプライチェーン停滞等に伴う需要減少の影響を受け、日本・アジア・欧州市場ともに需要が低迷しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 13,873 百万円と前年同四半期と比べ 12 百万円（0.1%減）の減収となり、営業利益は 670 百万円と前年同四半期と比べ 499 百万円（42.7%減）の減益となりました。

- ・ **食品事業**

食品は、消費者の節約・低価格志向を背景に需要が伸び悩む中で、新製品拡販などにより販売数量が増加するとともにコストダウンに努めましたが、油脂等原料価格の上昇の影響を強く受けました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 33,070 百万円と前年同四半期と比べ 2,491 百万円（8.1%増）の増収となり、営業利益は 1,623 百万円と前年同四半期と比べ 666 百万円（29.1%減）の減益となりました。

- ・ **ライフサイエンス事業**

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大しました。医薬バルク・中間体は、海外向け販売数量が前年同四半期を下回りました。機能性食品素材は、米国市場を中心に高機能品の販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 11,532 百万円と前年同四半期と比べ 464 百万円（3.9%減）の減収となり、営業利益は 1,685 百万円と前年同四半期と比べ 950 百万円（36.1%減）の減益となりました。

・ **エレクトロニクス事業**

液晶関連製品は、新規用途の拡大などにより販売数量が増加したものの、超耐熱性ポリイミドフィルムは、震災の影響等によるエレクトロニクス製品市場の需要停滞から販売数量が前年同四半期を下回りました。太陽電池は、競争の激化に伴う販売価格下落の影響を受けるとともに欧州・アジア市場向けの販売数量が減少しましたが、国内市場向けの販売数量は着実に増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 9,939 百万円と前年同四半期と比べ 30 百万円（0.3%増）の増収となり、営業損失は 1,421 百万円となりました。

・ **合成繊維、その他事業**

合成繊維は、円高及び原燃料価格の上昇の影響を強く受けましたが、海外市場の需要が堅調に推移し、販売数量が前年同四半期を上回るとともに、販売価格の修正やコストダウンによる収益確保に努めた結果、増収増益となりました。また、その他事業についても、収益を確保しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 7,803 百万円と前年同四半期と比べ 656 百万円（9.2%増）の増収となり、営業利益は 399 百万円と前年同四半期と比べ 60 百万円（17.9%増）の増益となりました。

### 3. 海外売上高の状況

（単位：億円）

	23年3月期 第1四半期	24年3月期 第1四半期	増減額	増減率
アジア	185	162	△ 23	△12.6%
北米	87	84	△ 2	△2.6%
欧州	97	115	18	+18.3%
その他	45	43	△ 3	△6.1%
海外売上高計 （海外売上高比率）	414 (36.7%)	404 (33.9%)	△ 11	△2.6%

- ◎ 海外売上高は、欧州・北米の経済回復をベースに、海外子会社の売上高が増加しましたが、輸出は東日本大震災の影響などから減少し、海外売上高は 404 億円と前年同四半期に比べて 2.6%減となりました。海外売上高比率は 33.9%と、前年同四半期の 36.7%を下回りました。

## 4. 連結貸借対照表

(平成 24 年 3 月期 第 1 四半期決算短信【添付資料】P. 5・6 参照)

(単位：億円)

		23年3月期末	24年3月期 第1四半期末	増減額
資 産	流動資産	2,224	2,283	59
	固定資産 等	2,327	2,306	△ 21
	合計	4,551	4,589	38
負 債	有利子負債	666	675	9
	その 他	1,267	1,310	43
	合計	1,933	1,985	52
純 資 産	自己資本	2,521	2,507	△ 14
	少数株主持分 他	97	98	1
	合計	2,618	2,605	△ 14
負債、純資産 合計		4,551	4,589	38
D/Eレシオ		0.26	0.27	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、前連結会計年度末に比べて 38 億円増の 4,589 億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、9 億円増加し 675 億円となりました。
- ◎ 純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により 14 億円減の 2,605 億円となりました。

**5. 連結キャッシュ・フロー計算書**（平成 24 年 3 月期 第 1 四半期決算短信【添付資料】P. 9・10 参照）

（単位：億円）

	23年3月期 第1四半期	24年3月期 第1四半期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	130	52	△ 77
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 71	△ 55	17
フリー・キャッシュ・フロー	58	△ 2	△ 60
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 33	△ 18	15
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	20	△ 15	△ 36
現金及び現金同等物の期末残高	426	354	△ 71

- ◎ 当第 1 四半期連結累計期間の営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により 52 億円、投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により 55 億円、財務活動による資金の支出は、配当金支払等により 18 億円となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第 1 四半期連結会計期間末残高は、354 億円となりました。

## 6. 業績予想 （平成 24 年 3 月期 第 1 四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】 P. 4 参照）

- ◎ 当第 1 四半期の事業環境は、東日本大震災によるサプライチェーンの停滞や原発問題、電力供給不安の影響などから日本の経済活動が低迷した一方、欧米の景気は緩やかな改善を辿り、中国はじめアジア市場でも景気の拡大基調が続きました。今後の経済情勢は、日本国内の震災復興需要が本格化してくると予想される一方、欧州の金融不安や米国・アジアの景気減速の懸念は拭えず、為替や資源価格等の動向も合わせ、先行きは非常に不透明となっております。

このような状況をふまえて、当社グループは、東日本大震災による事業的影響を極小化するべく注力を続けるとともに、各事業において、販売数量増大のための施策及び製造コストや経費の削減等の収益確保策に徹底して取り組んでまいります。

なお、第 2 四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、変更しておりません。

### 前回発表予想

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第 2 四半期（累計）	2,300	90	85	45
通期	5,000	250	235	130

以 上

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。